

# 【時事評論】

## 台湾、民進党の頼清徳政権が発足も 前途多難の幕開け

石原 忠浩  
(本誌編集長)

### 頼清徳総統の就任演説とその反応

2024年5月20日、頼清徳政権が発足した。頼総統は同日の就任演説で两岸関係について、蔡英文前総統が掲げた独立も統一もしない「現状維持」路線を堅持していくことを強調した。また中国との関係における現状認識として、「中華民国と中華人民共和国は互いに隷属しない」と主張したほか、中国が対話再開の前提条件と主張する「92年コンセンサス」などを台湾が受け入れても、中国が台湾を併呑する企図は無くならないと中国への警戒感を強調した。さらに国防力の強化、経済安保の確立、価値外交の推進などによって平和を実現させていくと主張した。一方で、民間交流に関しては、対等な立場での観光交流、中国人学生の台湾留学の再開などの人的往来への期待を述べ柔軟な姿勢を示した。

就任演説に対し台湾世論は対極的な反応を示した。民進党寄りのメディアや有識者は、同演説は中華民国台湾が独立主権国家であることを強調したと肯定的に論じた。野党陣営は、頼氏の主張は李登輝元総統が提起した「中国と台湾は特殊な国と国との関係」である「二国論」の修正版であり「新二国論」だと批判した。